

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 月1	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生物の科学 (プランクトンと海洋環境) Biological Sciences (Plankton and Marine Environment)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 自然科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 鈴木利一 / Eメールアドレス: tsuzuki@net.nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 水産学部鈴木研究室 / TEL: 095-819-2821 / オフィスアワー: 授業の前後			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: プランクトン(浮游生物)は海洋水柱中に普遍的に存在する。各々の個体は極めて小さいが、その現存量は莫大であり、海洋の環境を考える際には決して無視することができない生態群である。本講義では、このプランクトンを主体、それを取り囲むものすべてを海洋環境ととらえ、両者の相互作用について、理解し考察することを目的とする。</p> <p>授業方法: 浮游生物の生態に関する、基本的な概念および研究成果を出来るだけわかりやすく紹介する。</p> <p>授業到達目標: 浮游生物を生き様を通して、海洋の環境を理解するセンスを身につける。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>以下の順番および内容で授業を進めていく予定であるが、受講学生の専門によってはその分野に対応した内容も取り上げる可能性があります。</p> <p>第1回 浮游生物と水(水圏の環境と陸上の環境)</p> <p>第2回 浮游生物と塩分(海水の環境と陸水の環境)</p> <p>第3・4回 独立栄養浮游生物と海洋環境(植物プランクトン、光合成、基礎生産)</p> <p>第5・6回 従属栄養浮游生物と海洋環境(動物プランクトン、摂餌、呼吸、運動)</p> <p>第7回 海洋食物連鎖と海洋環境(食う食われるの関係、栄養段階、転送効率)</p> <p>第8回 浮游生物の多様性と海洋環境(種多様性、多様度指数)</p> <p>第9回 海洋汚染と浮游生物(排水、生物濃縮)</p> <p>第10回 富栄養化と浮游生物(栄養塩、有機物生産、分解)</p> <p>第11・12回 赤潮・青潮(藻類大増殖、貧酸素化、硫黄循環)</p> <p>第13・14回 浮游生物と地球・海洋環境(物質循環、気候変動)</p> <p>第15回 まとめ・全授業の総括(試験を含む)</p>			
キーワード	浮游生物、海洋環境		
教科書・教材・参考書	浮游生物学(Planktology, Planktonology)、海洋生物学(Marine Biology)、生物海洋学(Biological Oceanography)、海洋生態学(Marine Ecology)等のキーワードがついたタイトルの、一般的な教科書が参考書となる。参考文献は適宜紹介するが、図書館等で自主的に渉猟するように。		
成績評価の方法・基準等	最終試験で評価(100%)を行う。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			